

日语精读第三册练习问题参考答案

第1課

一.

につれて にしたがって にともなう

1. にしたがって
2. にともなう
3. につれて

ところで それでは さて

1. さて
2. ところで
3. それでは
4. ところで

二.

1. いかにか医療技術が進んだといっても、治療して必ず回復するとは限らない。
→ 「いかにか医療技術が進んでも」も可
2. いかにか頭のいい人でも、失敗したことがあるだろう。→ 「いかにか頭のいい人だといっても」も可
3. いかにかこの辺りが便利か、そこに住んでいる人にはよく分かる。
4. いかにか仕事がつらくても、文句を言っははいけない。→ 「いかにか仕事がつらいといっても」も可

三. (解答例)

1. なんとなく姿勢を正した

2. 責任感

3. どうも彼には好感を持ってない。

四. 略

五.

1. 日本人はそれが大事なものであれば余計に、自分一人の裁量だけではなく、家族や先輩と相談し、無意識のうちにも民族の伝統とでもいえる知恵を借りて意思決定をするのが常である。ところが、アメリカ人は何事も自分自身に問いかけて決めねばならない宿命を持つ。
2. 歴史が短く、人種も多いため、固有の伝統や文化が生まれにくいから。
3. 伝統や慣習でなく、個人の意志が重視されるから。
4. 「得」は、社会が流動性を増すことや、革新的色彩が強くなることや、面白いアイデアがどんどん生まれて育つことや、新しい実験が思い切って敢行されることで、「失」は、短期間的決済を求める傾向が強くなり、また、自己の成功を追い、利己主義にも走りがちなので、政府や企業の政策が往々にしてその場限りのものとなり、長期的ビジョンに欠けることである。「この観点」とはアメリカは人為社会で、既成概念にとらわれない「個人人間」が育つことである。
5. 集団的行動となると永続性を重んじ、保守的傾向をとるが、個人人間の活動が活発になると社会は流動性を増す。
6. 伝統の重みがない社会では、個人の活動が活発になり、創造性が発揮されやすいので、革新的色彩も強くなるし、面白いアイデアもどんどん生まれて育つからである。
7. 個人人間の時代には、個人の創造性が発揮されやすい。そのため社会は、破

壊の上に建設というパターンをとる、流動的で、革新的色彩の強いものとなる。一方、短期間的決済を求める傾向が強く、長期的ビジョンに欠けるというデメリットの面もある。

第2課

一.

というか といった とかいった かという

1. といった→「とかいった」も可
2. とかいった
3. というか
4. かという
5. という

かと思う とか思う

1. とか思う
2. かと思う
3. とか思う
4. かと思う
5. かと思う

やがて やっと ついに ようやく

1. やっと→「ようやく」も可
2. やっと
3. やがて

4. ついに

次第に に応じて とともに ほど

1. に応じて
2. とともに
3. 次第で
4. ほど

二. (解答例)

1. 彼を見ていた
2. 簡単な仕事さえできない
3. まだ何も返事がありません
4. 前回の事件をきっかけに

三. 略

四.

1. 東の空がスマイレ色に変わってきた。脚下一面、暗い雲海がだんだん分かってきた。空は刻々と微妙に変化し、スマイレ色の上空に、とても、この世では二度と見られまいと思うような透明な薄いセルリアン・ブルーが現れた。じっと眺めていると、それはだんだんコバルトに染まっていく。遠い東天に懸かっていた三筋ほどの棚雲の縁が、淡い緑から急速調で濃いオレンジに変化したと思っているうちに、一筋の黄金色のハーブの絃が天心に矢になって走った。
2. この世では二度と見られまいと思うような透明な薄いセルリアン・ブルーのこと。

3. 太陽が昇るときまで。
4. I氏の引率のおかげで、生まれて初めて高い山に登って、こんなすばらしい光景にめぐり合ったから。
5. 山上の光景には人間の世界を超えた認識があるし、単なる自然の世界をも超越した思想があるように感じるという意味。
6. 山上の景観には、世界という全体であり一つであるものの存在を信じさせる力があつたから。

第3課

一.

いわば　いわゆる　つまり

1. いわば
2. いわゆる
3. つまり
4. いわば

いまだ　いまさら　いまや

1. いまだ
2. いまさら
3. いまさら
4. いまや

かたといって　からといって　からには

1. からには

2. からといって
3. からといって
4. からといって

二.

1. もう子供でもあるまいし、自分のことは自分でしなさい。
2. その提案に反対する人はまずいまい（いるまい）。
3. 誰も私の話を信じてくれまい（くれるまい）。
4. あの子はなくまいとして歯を食いしばっている。
5. 彼は若く見えるが、本当はかなりの年配なのではあるまいか。
6. 何とかこれだけ助けてもらえまい（もらえるまい）かと頼まれて、仕方なく引き受けた。

三. (解答例)

1. 彼の脅しなど
2. 五年前の10倍になるんじゃないかと心配する
3. 彼女の寮の前で3時間も待っていた
4. 単なる物質的なものとは限らない
5. 黙って子供の日記を読む権利はない
6. 将来を心配しなくてもいい
7. そんな言葉遣いをしてはいけない
8. 2、3人で協力してやったら、もっと効率的だ

四. 略

五.

1. 他人にすすめられるほどの読書法など持っていないし、仮にあるとしても他人にとって役に立つことになるとは思えないから。
2. 読書は、単に技術的なもので左右することのできない、人間にとってももつと本質的なところと結びついているから。
3. 読書家でも読書法などという概念がまったくない場合もあることを証明するため。
4. 当時は地上の多くが大木におおわれていたらしく、木から木へと渡ることができるので、コジモの活動範囲は甚だ広いから。
5. 人間にとって、単に技術的な問題でなく、本質的な問題なので、個々人で確立するしかないものだと考えている。
6. 略

第4課

一.

このあいだ このごろ このところ このさい

1. このさい
2. このあいだ
3. このごろ
4. このごろ (このところ)

にとって に対して として について

1. として
2. にとって
3. について

4. に対して

二.

1. ③

2. ③

三. (解答例)

1. 夢のようだ

2. 行ったり来たりしている

3. 活発な子だ

4. 困ったことが山積みだ

四. 略

五.

1. 現実の何事もない出来事の一つ一つが、さまざまな夢によって意味づけられ彩りを帯びる『更級日記』の作者の生き方と、どんな夢も現実の人間世界の心的機制や身体の部分を示すものとして処理してしまうフロイトの生き方。
2. 「現実の日常性の延長として分析する」とは現実によって夢を解釈することであり、「日常の現実が夢の延長として語られる」とは反対に夢によって現実を解釈することである。
3. 世の中にたいいていのことはクダラナイ、ツマラナイ、オレハチットモ面白クナイ、という顔をしていて、いつも冷静で、理性的で、たえず分析し、還元し、君たちは面白がっているけれどこんものショセンxxニスギナイノダといった調子で、世界を脱色してしまうタイプの人間。
4. 「彩色の精神」とは、現実を夢で解釈して、世界を彩る精神態度といった意味

合いで用いられ、「脱色の精神」とは、夢を現実で解釈して、正解を脱色してしまう精神態度といった意味合いで用いられている。

5. 科学と産業の勝利的前進とともに、脱色の精神によってとらえられた人びとの心が、脱色してしまった世界。

6. 世界と人生を脱色し、退屈で無意味な灰色の荒野にしてしまうもの。

第5課

一.

～にせよ～にせよ ～につけ～につけ ～につれ～につれ ～といい～

といい

1. につけ につけ
2. といい といい
3. にせよ にせよ
4. につれ につれ

そう言えば それなら そうしたら そうすると

1. そうしたら
2. それなら
3. そうすると
4. そう言えば

二. (解答例)

1. 山田さんは誰にも声をかけずに帰ってしまったね
2. 先日、あいつから同窓会でもやろうかとの連絡があったよ

3. 彼の話にはいつも刺がある
4. 光が見えてわかるようになるよ
5. 病状が悪化した
6. 四人家族を養えない
7. 人として行うべきことを通さなければならない

三.

1. 軽い主張や断定を表す。
2. 動詞の連用形 I を受けて、ぞんざいな命令を表す。「なさい」の略と理解してもいい。
3. 文節末に付いて、相手の注意を引き付けたりする。
4. 念を押す気持ちで、勧誘の働きかけをやわらげる。
5. 動詞などの終止形を受けて、強い禁止を表す。

四. 略

五、

1. 略
2. 分相応と分不相応というものがあり、若いうちは大衆酒場で安酒を飲んで酔っ払って道路で倒れても、それがそれが分相応に見えるので良いが、一人前になった人間がそれをやると、逆に分不相応に見えるから。
3. 略
4. 略
5. 人が置かれた立場や身分。
6. 略

7. 人間として普段は自分の分に応じた生活を楽しむべきだ。「分不相応」を生活の基本にすべきではない。とはいっても、時には思い切った「分不相応」がないと、いつまでたっても進歩がないし、面白くない。つまり、自分の美学をきちんと持っていることこそ大事である。
8. 始めから「...と言って譲らない」までは第一意味段落；「分相応」という言葉もそう言えば」から「逆にいい年をしてあれをやるとみじめになる」までは第二意味段落；「自分の分をわきまえ」から「...美学が働いているのである」までは第三意味段落；「結局、...」から最後までは第四意味段落。

第6課

一.

はてる つくす きれる ぬく

1. はて
2. つくし
3. ぬい
4. きれ
5. つくし

なんて なんか

1. なんて
2. なんか
3. なんて
4. なんか
5. なんて

6. なんて→「なんか」も可
7. なんて
8. なんか
9. なんて

にかまける にかまう を問う

1. にかまけて
2. を問わず
3. にかまっ
4. を問わず
5. にかまけて

二. (解答例)

1. 気にならなくなるだろう。
2. うまくいくはずがない。
3. ついにマイホームを手に入れた。
4. 冒険を試してみたい。
5. 怪我をせ
6. 答えられる人はいない

三. 略

四

1. 高学歴、高収入、高身長。
2. (略)
3. (略)

4. (略)
5. 「三低」とは低姿勢・低依存・低リスクのことで、具体的に言えば、低姿勢はレディーファーストのことで、物腰が柔らかで、上品な男、低依存は自立していて、束縛しないで、お互いの生活を尊重する男、低リスクは将来に向けてリスクの低い安定した職業についている男のことを指す。
6. 失ったものこそ素晴らしく思われること。
7. 手に入れかけて失ってしまったものは、特に優れていたように思えるものだという事。

第7課

一.

1. B さだかに
2. D 都度
3. A 人情
4. D なお

二.

ばかりに だけに

1. だけに
2. ばかりに
3. だけに
4. ばかりに
5. ばかりに
6. だけに

かねる

わけにはいかない

1. 飲むわけにはいかない
2. 決めかねている
3. しかねない
4. 見かねて
5. あげるわけにはいかない

三.

1. 咲く 散り 散る 咲く
2. ある
3. 知らぬ
4. 忘れた
5. なった
6. 生きられない

四. (解答例)

1. 名門学校に入りたい
2. 見出さなければならない
3. 自分の主張を通していきたい

五. 略

六.

1. 著者に会ったばかりにせっかくの感銘も幻滅になってしまうことがあるから。
2. 距離によって臨時的に生じた、美しい関係。

3. 夜目に見たとき、遠くから見たとき、笠の下からのぞき見たときなどは、女の顔が実際より美しく見えるというそのことわざの意味は、活字の向う側に立っている名著の著者の顔が、読者に美しく感じられるのに通じる。筆者は、名著の感銘を愛するには、近寄って実際に著者に会おうとしないほうがいいことを証明するために、そのことわざを引用したのである。
4. さだかに分かりかねること。
5. 魅力を感じたらもっと著者に近づいていっそう大きな魅力に触れたいと考える読者のこと。
6. 書物の中の日本を愛する人間が現実の日本に接すればきっと幻滅を感じるに違いない、と考えたから。
7. 何事であっても、近寄って確実にこの目で見るとして体験しようと呼んでいる社会のこと。
8. (略)

第8課

一.

上で 上に 上は 上では

1. 得られない上は
2. 上では
3. 苦しい上に
4. 煮た上で

と や とたんに

1. 聞くや

2. 取ると
3. 歩いていると
4. 安心したとたんに

やや わりに

1. やや
2. わりに
3. わりに
4. わりに
5. やや

二.

1. C 自身
2. A ところ
3. D 恥らう

三.

1. 断り
2. 想像し
3. 尽くし
4. 得

四. (解答例)

1. 適当な行動をとるべきである。
2. 老若男女だれにでも愛されているというわけではない。
3. 同じ状況に置かれた部下のミスをカバーしようとしているのも理解できない

でもない。

五. (略)

六.

1. 平和なスポーツの祭典であるオリンピック大会への参加も、世界の経済機構への仲間入りも許されなかった、日本が世界の嫌われ者であった時代。
2. 第二次世界大戦期の日本は、自国の強大化を図るため、自民族の優越性を唱え、政治的、経済的、軍事的、さらに文化的な権威を以って、他国への侵略と支配をしようとしていた。
3. 外国人の私が月末になると金詰まりの状態になることに気づいたから。
4. 寒がりひもじがっていた日本人の「私」に親切にしたフランス人親子の温かい心。また、求めるところのない隣人愛としての人類愛。
5. (略)
6. (略)

第9課

一.

ともかく とにかく

1. とにかく→「ともかく」も可
2. ともかく
3. ともかく
4. とにかく→「ともかく」も可

二.

1. やおら
2. のそのそと
3. じっと
4. いつのまにか
5. たちまち
6. てんでに
7. 必ずしも
8. ほぼ
9. ついに
10. 次第に
11. ふと

三. (解答例)

1. 騒ぐでしょう
2. むしろ国内の大学で勉強したほうがよい
3. 新聞を見ただけでは、その新しくできた法律は
4. 栄養のバランスはいいのだから、残してしまっは駄目だ
5. 緊張して、足がすくむ
6. 疲れて寝てしまったりする
7. 微妙らしい
8. 彼はしつこくそれをしたかった。

四、(略)

五、

1. その理由は

「猫は一人でいることを好むのである。けれど、いつも一人でいるわけではない。

猫は視覚的な動物であり、視力が優れている。けれど、視覚にアンバランスなところがあり、動かないものは目に入らない。けれど、動かなければ見えないかという、必ずしもそうではない。

人間の目から見れば、あれほどバラエティに富んだ黒猫から三毛猫、ぶちに至るまで、猫同士ではただ猫であるとしてしか認識されていないようである」などである。

2. さっきまでそこにいたと思った猫がいつの間にか姿を消したので、ふと見ると、二階の廊下の突き当たりにある、明かり取りの窓の枠に、じっとうずくまっていて、一心に外を見下ろしていたりする。ほかの猫が外を通るとじっとその猫の姿を目で真剣に追い、その猫が道端の植え込みの中へ姿を消してしばらくすると、忽然として起き上がり、さっきの猫が通ったのとほぼ同じルートを経て、どこかへ消える。また、一匹が部屋から出してくれとって鳴くので、ドアを開けてやると、入れ替わりに別の猫が入ってくる。出て行った猫は、二階の作者の部屋で、いすに丸くなってもう眠り込んでいる。ふと隣の客間を見ると、ソファの上でまた別の一匹が眠っている。しばらくして、作者がもう一度自分の部屋へ戻ると、さっき眠っていた猫はもういないのである。

といったように、独りでいることを好み、てんでに好き勝手な動きをしていることが多いという具合だった。

3. 動かないものは目に入らないから。

4. 独りでいることを好むが、いつも一人でいるわけではない。また、視覚的な動物であり、視力が優れているが、視覚にアンバランスなところがあり、動かないものは目に入らない。けれど、動かなければ見えないかという、必ずしもそ

うではない。さらに、視力が優れているが、人間の目から見れば、あれほどバラエティに富んだ黒猫から三毛猫、ぶちに至るまで、猫同士ではただ猫であるとして認識されていないようである、といった、矛盾に満ちた姿。

5. (略)

第10課

一.

といたら といえ

1. といたら
2. といえ→「といたら」も可
3. といたら
4. といえ→「といたら」も可

二.

1

①赤ランプ ②赤紙 ③赤電車 ④赤信号 ⑤赤字 ⑥赤旗

⑦赤札

2

①赤恥 ②赤貧 ③赤の他人 ④赤裸 ⑤真っ赤な

三. (解答例)

1. 何とかして短時間で自分を伝えることだ
2. 彼のやっていることを見ると
3. 実践のための方法や技術の習得もめざしています
4. 車といっても中古車なんです

5. 自分を責めよ 人を許せ

四. (略)

五.

1. 青葉の中に一輪の赤い花が咲いている。、「唯一異彩を放つもの」から、転じて、多くの男性の中にただ一人女性がいることを「紅一点」というようになった。
2. 驚いたような、変に思う気持ち。
3. 赤、紅、朱、緋、丹の5つ
4. 日本においては赤は一連の注意や危険を意味する語につき、要注意という意味で使われる。そして、心をひく、興奮させる色としても使われる。また、まったく縁がないという意味でも使われる。

しかし、中国においては赤色は非常に良い意味で使われる。清の時代には一品から九品という役人の位があった。その役人達はみな帽子をかぶっていたのだが位によって帽子の上にある珠の色が違うのだ。最高位の一品の珠は赤色だった。

また、赤色は民衆から愛される色として結婚式や祝い事などに使われる。今でも年男、年女は赤い色を身に付けておけば縁起がいいということで赤い下着を身に付ける人もいるし、おめでたい時に人に渡す「紅包」(祝儀袋)も真っ赤だ。

5. (略)

6. 三つの意味で使われている。

第一に、赤は一連の注意や危険を意味する語につき、要注意という意味で使われる。

第二に、心をひく、興奮させる色としても使われる。

第三に、まったく縁がないという意味で使われる。

第11課

一、

1. いわゆる
2. つまり
3. いわゆる
4. いわゆる
5. つまり
6. つまり

二、

1. いったい
2. わざと
3. こっそり
4. いまだに
5. いよいよ
6. だいたい
7. およそ

三. (解答例)

1. いつかはそれをやらねばならない
2. 今いきなり先生になりたいといっても、無理だよ。
3. 人間関係の改善にも役立つと思います
4. その夫婦が持っているものを受け継ぐだろう
5. 遊びに行かないと

四. (略)

五.

1. アメリカはヨーロッパにプロテストした人たちによって作られた国だから。
2. キリスト教の文明がいつも一本の筋を通してヨーロッパとは違い、文化に渾然たるところがあって堅苦しさが目立たないので、権威で押しつけるような形で文化が流入してこなかったから。
3. 敵国で、占領軍の棟梁だった元帥が帰国するのを送って涙を流す日本人の心理が理解できなかったから。

4. 徹底的に壊滅させるのではなく、生殺しにするというアメリカの占領政策が成功して、日本人はアメリカをむき出しで憎むことも、愛国心を奮い立たせることもしなかった。日本人はアメリカに対して、感謝に近い複雑な気持ちを抱いていると考えられる。
5. アメリカの占領政策は、徹底的に日本人を壊滅させるのではなく、生殺しにするという、それまでとは違う新しい形であったから。
6. アメリカが日本庶民に対して手荒くあたることをしなかったこともあるが、何より、宵越しのカネはもたないみたいに、宵越しの恨みは持たないところが、日本人のメンタリティにあると考えている。

第12課

一、

1. ますます 2. もっと→「すこし」も可 3. おおいに 4. もっと 5. たいてい

1. べたべた 2. いちおう 3. そっくり 4. 勝手に 5. かえって 6. とうとう

二. (解答例)

1. 例外はいる
2. やりがいがあると思う
3. これからに期待したほうがいい
4. 素晴らしいプレゼントまでいただいて本当にありがとうございます

三、(略)

四.

1. そんなロボットを作る費用があれば、もっと能率のいい機械ができたし、雇われたがっている人間は、いくらもいたから。
2. まったくの趣味のために作られた。
3. 若いのにしっかりした子だし、べたべたおせじを言わないし、飲んでも乱れないから。
4. お金の問題で二度とバーに来れないし、また、それを伝えても、ボッコちゃんがあくまで冷たかったため。
5. みんな「薬」の入っている酒を飲んで死んだから。

第13課

一.

ひときわ なお 一段と

1. ひときわ
2. 一段と
3. なお
4. 一段と
5. ひときわ
6. なお

ついに 結局 ようやく

1. ついに
2. ようやく
3. 結局

4. ようやく

5. 結局

6. ついに

もしかしたら おそらく

1. おそらく

2. もしかしたら

3. もしかしたら

4. おそらく

5. もしかしたら

二.

1. 寝ようと思っ

2. とろうとし

3. しようとしな

4. 死につつある

5. 待っている

6. 知らないはずが

7. 辞めるとは思わなかつた

8. 優勝しないだろう

9. 透けて見え

三. (解答例)

1. ちょっと遅すぎるね

2. やはり今の仕事を辞めることにした

3. 優れた才能の持ち主である

4. 高層ビルの建築に適しない

5. エンジンの故障

四. 略

五.

1.

①金星が明るく見えるのは、地球に最も近い惑星であるうえに、表面が厚い雲に覆われていて、太陽の光をよく反射するから。また、金星に生物が存在するかもしれないと想像された根拠は、大きさも少し地球より小さい程度なのと、さらに、表面が厚い雲に覆われているので、降雨と、その結果としての海の存在が想像されたから。

②それは、まず金星を覆っている厚い雲は濃い硫酸の水滴の集まりであること、また、金星の表面には、いつも秒速数 10 メートルという猛烈な風が吹いていること、そして、表面の気温は、なんと摂氏 480 度にも達していることなどが明らかになったため、打ち消された。また、金星の表面が高温になってしまった理由は、金星大気中の 97%の二酸化炭素によって熱が増え、気温が上昇する、いわゆる「温室効果」にある。

③地球では、海が誕生したために、二酸化炭素が水に溶け込んでしまったが、金星では、地球よりも太陽に近かったために水はすべて蒸発してしまい、二酸化炭素が大気中にたまる一方だったから。

④現在、地球上で温室効果が進んでいる原因は、石油や石炭のような化石燃料が大量に消費されることによって、大気中の二酸化炭素が増え続けていることにある。それによって、四十六億年かかって作り上げられた豊かな環境のバランスが崩れていき、気候も変わり、また植物の生育状況や分布が変わると考えら

れる。

2.

- ①筆者が金星の話から書き出しているのは、金星大気の話に入る前に、予備知識として金星についての紹介や説明が必要だからである。最初のまとまりの「生物が存在するかもしれない」という仮説を受けて、二つ目のまとまりでは、それを否定し、そして否定する理由も具体的に述べ、最初のまとまりと二つ目のまとまりはそれぞれ「起・承・転・結」という典型的な文章構成パターンの「起」と「承」の部分に当たる。
- ②金星と対比して地球の歴史を述べているのは、海つまり水の形成が二酸化炭素を吸収し、そして生物を生み出すことを導き出すためである。そして、三つ目のまとまりでは、地球での水の形成と生物の誕生を述べていて、二つ目のまとまりとは対比関係にある。二つ目のまとまりと三つ目のまとまりはそれぞれ「起・承・転・結」という典型的な文章構成パターンの「承」と「転」の部分に当たる。
- ③この文章で筆者がもっとも訴えたかったのは、地球の温暖化をこれ以上進めないため、世界の国々が知恵を出し合おう、ということである。四つ目のまとまりでは、三つ目のまとまりの内容を受けた上で、「人類が盛んな活動によって、今、地球の環境を壊しつつある」と指摘し、筆者が自分の意見を出している。三つ目のまとまりと四つ目のまとまりはそれぞれ「起・承・転・結」という典型的な文章構成パターンの「転」と「結」の部分に当たる。

第14課

一.

という といった

1. といった
2. という
3. といった
4. という

まもなく やがて 直ちに

1. まもなく
2. やがて
3. 直ちに
4. まもなく
5. 直ちに
6. やがて
7. まもなく

いかにも まるで

1. いかにも
2. いかにも
3. まるで
4. まるで

二.

1. 飲みかけ
2. 泣きだし→「泣きはじめた」も可
3. 死にかけ
4. 通りかかった

5. 呼びかけ
6. なると

三.

1. 移り行く
2. 優れた
3. 死んでいた

四. (解答例)

1. しみじみ人情のありがたさを感じる
2. 不思議な男が通りかかった
3. 自分の部屋 階段教室 自習している
4. 授業をサボってしまったので
5. 最近長期出張にでも行っていたもの

五. 略

六.

1. 筆者は幼い子供からかけられた言葉を、心をあたため、明るくしてくれるものと感じ取った。そして、「明るい気分」になったり「清しい気持」になったりしたのは、見たままの真実を、そのままに、なんのためらいもなく、見知らぬ通行人に話しかけた、幼子らしい人なつつこさを感じたからと考えられる。
2. だれでも、自分の言ったこと、したことが誤っていたと気づいたとき、これほどこだわりなくその非を認め、これほどすなおにその非を改めることができたなら、どんなに幸福だろうかと、うらやましく思った。

3. 共通点は、どちらもある真実がそのままほとぼしり出たようなものである
ということで、相違点は、幼子の言葉が見たままの真実であるのに対し、
少年の言動は心いっばいの真実であるということである。
4. 「こういうことば」は、具体的には、幼子の「おじさん、寒いね。」と「細
い道だね。」、少年の「おはようございます。」と「先生、わたしは、さっき、
先生だということを知りませんでした。」という言葉の指している。筆者が
「こういうことば」を「命のあることば」と評価しているのは、そのよう
な言葉は不思議なほど、聞く人の心を動かし、明るくする力があり、暗く
閉ざした胸を開かせ、冷たく固まった心をとかし和らげることができるか
らである。
5. 意識的な努力によって、幼子や少年の特権ともいうべき純真さの表れとし
ての命あることば以上に、力強い、価値のある言葉を言うことができる、
と理解できる。
6. それにつけて思い合わされる、もう一つの楽しい思い出があります。
7. 命ある言葉を失わず、それどころか、ますます、それを力強いもの、値
打ちのあるものに育てていくため、わたしたちは常に話すこと聞くことの
純化に心を傾け、反省と努力によってその働きを練りみがいていくべきだ
というのが筆者の主張である。筆者は主張を打ち出すために、経験談をし
ては感想を述べ、また経験談をしては感想を述べ、最後にまとめて議論し
結論にたどり着くという手順をとっている。

第15課

こと もの わけ

1. もの
2. こと
3. わけ
4. もの
5. こと
6. こと
7. わけ

いざ いよいよ

1. いよいよ
2. いざ
3. いざ
4. いよいよ

二.

1. 成長したように見える
2. 寂しそうに見えた
3. 知っている
4. 有能な
5. 食べれば食べるほど
6. 深まるにつれて

三. (解答例)

1. 彼はあれほど成長を遂げたのだ
2. ことここまですると

3. でたらめな答えを書いてしまった
4. 太郎のほうにあった
5. 逃げ出した

四. 略

五.

1. 老子の言葉については、すべての価値概念は相対的で、われわれの人生には絶対的なものなどありはしないというように理解されている。また、筆者がこの一般的な理解を出すのに、不幸と幸福、病気と健康という相対的な価値概念を二組挙げている。
2. どんな人間の心にも、小さなことを絶対化してしまう傾向や癖があるから。
3. 一つは病気や不幸を利用して何とかトクすることはあるまいかと考えること、もう一つは病気や不幸をユーモアにしてしまうやり方を考えること。
4. 物質的な、また、精神的なトク。
5. 筆者は『碧巖録』に出てくる言葉を、人生で一時的にはマイナスにみえるもの（挫折、病気、失敗）にも必ずプラスとなる可能性があり、その可能性を見つけて具現化さえすれば過去のマイナスもいつかはプラスに転ずるというように「自己流」に解釈している。その言葉の本来の意味と筆者の「自己流」の解釈との共通点は、富めるものと貧しきもの、プラスとマイナスといった価値概念は相対的で、絶対的なものではないというところにある。
6. 第一の部分の結論は病気や不幸などのマイナスのものをユーモアにしたり、利用したりして、トクをすることができるということである。第二の部分の結論は、人生で一時的にはマイナスにみえるものにもプラスとなる可能

性があり、その可能性を見つけて具現化さえすれば過去のマイナスもいつかはプラスに転ずるということである。第一の部分では、自分の病気を利用してトクをした例、第二の部分では、筆者自身の、人生や人間に対する評価の仕方の変化によって、人間関係を改善した例を挙げた。

第16課

一.

上に 上で 上は

1. 上で
2. 上は
3. 上に
4. 上で
5. 上に
6. 上は

やはり 果たして

1. やはり
2. 果たして
3. 果たして
4. やはり

いきなり 突然 急に

1. 突然死
2. 急に

3. いきなり
4. 突然
5. いきなり
6. 急に

なり だの

1. なり なり
2. だの だの
3. だの だの
4. なり なり
5. なり なり
6. だの だの

元来 本来 もともと

1. もともと
2. 本来
3. 元来
4. 本来

二. (解答例)

1. 転職させられた
2. いろいろなところを見て回ろう
3. 大学を卒業しないと、なかなかいい職につけない
4. 政府がレジャーセンター開発のプロジェクトを実施する

三. 略

四.

1. 筆者は幸福の生活と体力（健康）、人間的能力との関係について、幸福の容れ

ものとして体（体力）があり、その中身として、人間的能力があると述べている。また、日本の現代社会の能力育成において、日本の教育が知識・技術の習得に偏りすぎ、学歴社会を作ってしまう、あげくの果てに頭デッカチのアンバランスな人間を生み出しているという、よくない傾向が見られる。

2. 「歩くこと」に対する誤った認識には、「歩くなんてばかばかしい。運動にもなりゃしない」だの、「歩くなんてひま人のやることだ」というものがある。

「歩く」ことは、脳の働きを強化すると同時に、運動の楽しさをも教え、実際面でも抽象面でも自分の世界を大きく育ててくれる。

3. 左脳は言葉を用いて表現できる理性、分析力、批判的思考力などを、右脳は言葉では表現できにくい認識、直感、感覚、想像力などを分担している。また、運動すると、心臓から酸素を十分に含んだ血液が脳に送り込まれ、脳のシステム全体が目覚まし、活発に活動を開始することで1、右脳の働きも強化されるのである。

4. 第一の部分：現代社会において本当の意味での幸福を得るためには、健康な体がなければならない。

第二の部分：「歩くこと」が人間の健康にもたらしてくれる効果。

第三の部分：運動が人間の脳、特に右脳の働きに与える影響。

第四の部分：筆者は上の文章をまとめて、「歩くこと」から運動を始めよう、と提案する。

四つの部分はそれぞれ「起承転結」という文章構成パターンの「起」、「承」、

「転」、

「結」にあたる。

5. 略

第17課

一.

すべての あらゆる

1. すべて
2. あらゆる
3. すべての
4. あらゆる

あたり ごとに

1. あたり
2. ごとに
3. あたり
4. ごとに
5. あたり
6. ごとに

から で

1. で
2. から
3. で

4. から

だって にしても

1. にしても にしても

2. だって

3. だって

4. にしても にしても

5. だって

6. にしても

及ぶ 至る

1. 至る

2. 至る

3. 及んだ

4. 及んでいない→「及ぶ」も可

5. 至った

6. 及ばない

二. (解答例)

1. ここはトウモロコシの産地であることが分かる

2. 大学を卒業したら別々の町へ就職することになってしまった

3. あの人は借金だらけで、生活に困っているということだけだった

4. 田中さんは立派な経営者で、たったの3年であんな小さな会社を大きくし

て

5. 1時間も遅れてしまった

三. 略

四.

1. 「情報」は生物の特質を決める働きを持っている。そして、「物質」は具体的にDNA、あるいは遺伝子を指している。
2. まず、生物は皆、細胞からできていることがわかった。さらに、人間も他の生物も体内に同じ構造をしている繊毛を持っていることを明らかにした。さらに踏み込んで、あらゆる生物が自身の特質を決める遺伝情報を細胞のDNAに持っていることを証明した。
3. 人類のもつ複雑なDNAは、これまでのさまざまな生物の歴史につながってできたものであり、それがどこかで途絶えていたら、人間はこの世に生まれなかつたらうから。
4. 細菌から人間まで、生物は皆同じ仕組みで生きている仲間であるが、その中で、人間だけが言葉を持ち、それによって考えることのできる生物である。だからこそ人間は、地球上で他の生物とどう共存するかを真剣に考えるべきだ、ということ。
5. 第一部分：形式段落 1 から形式段落 2 まで
第二部分：形式段落 3 から形式段落 13 まで
第三部分：形式段落 14 から形式段落 16 まで
第四部分：形式段落 17

第 18 課

一.

再び また もう一度

1. 再び
2. また
3. もう一度
4. 再び
5. 再び
6. また
7. また

決して 絶対

1. 絶対
2. 決して
3. 絶対
4. 決して
5. 絶対
6. 決して

なしに なく

1. なしに
2. なく
3. なく
4. なく
5. なく→「なしに」も可

おもむろに 次第に

1. おもむろに

2. 次第に
3. おもむろに
4. 次第に

二.

1. 手術せずにすんだ
2. 謝ってもすまない
3. 笑わずにはいられない
4. 得られない限り

三. (解答例)

1. お風呂に入れないのは本当にたまらない
2. それなりの楽しみがある
3. ちゃんとしたアリバイがあるからだ
4. つい買ってしまった
5. このような成功は望めなかった
6. みんな生計に苦しんでいる

四. 略

五.

1. 共通点：人間も牛や羊も群棲する習性を持っている。

相違点:牛や羊が個体として目立たないで群を作って行動しているのに対し、人間は他人と同等になることと同時に、他人と違うことも好んでいる。

2. 人間は牛や羊と同じように群棲する習性を持っている以上、一人の道を

歩むこと、一人だけの価値体系を持つことは、勇気のいる恐ろしい
ことであるという

ことを説明すること。

3. どれだけ広汎に、濃厚に人間を理解し得たか、人間を見通す能力を持って
いるかということ。

4. 母親が保護することで、子供は苦勞しなくなり、人間について理解する機
会を失うことになるから。

5. 筆者がもっとも言いたかったことは、人間である以上、人生や人間をよく
理解するために、自分の道を歩み、自分の生涯を決定する価値観や価値体
系を持つべきだということである。あとは省略。

第19課

一.

向かって あたって

1. 向かって
2. 向かって
3. あたって
4. あたって
5. あたって

そして それに そうすると

1. そして→「それに」も可
2. そうすると
3. それに

4. そして

だけ ほど ずつ

1. だけ
2. ほど
3. だけ
4. ずつ
5. ほど
6. ずつ

二.

1. ①ではない
2. ①がない
3. ②にはいかなかった
4. ②にはいかない
5. ①きた
6. ②いく
7. ①ありそうだ
8. ①そうにない

三. (解答例)

1. いい憩いの場所ができるだろう
2. 家賃もあまり高くない
3. 部長に会いに行った
4. 旅行を中止した

四. 略

五.

1. ヒト・モノ・カネを充実させた。まず、ヒトについては、緊急事態に対応するために5人の専門官を置き、各自が5人ずつのチームを編成するようにした。次に、モノについては、彼らが出かけて行くための、緊急用具一式を準備しておいた。カネについては、2,500万ドルを緊急援助用の資金として準備した。また、いくつかの国やNGOと緊急支援の取り決めをして、事が起こったときに、ある程度訓練をした100名ぐらいを72時間以内に出してもらおうという取り決めをした。
2. 略
3. すべての国で、よい政権ができて、民主的な手続きで政治が行われ、経済が安定して、人権が尊重されるというようなこと。
4. たとえば、危険をはらんだ地域に、国連が連絡事務所網というものを設け、危険な状況があったとき、あるいは、こういう法的な問題に対しては、こういう法整備をもって対応したらどうかというような、法的な支援ということを心がけること。
5. 21世紀へ向けての難民問題は、世界の人道問題であり、さらに世界の政治・安全保障につながる大問題である。こうした人道問題を取っ掛かりにして、世界的な協力態勢というものを真に打ち立てていかなければならない、それには地球に住む人全員の協力が必要だと、筆者は考えている。略
6. 略

一.

なかなか よほど かなり

1. かなり
2. なかなか
3. よほど
4. かなり
5. よほど

なんだか なんとなく なんとか

1. なんだか
2. なんとか
3. なんとなく
4. なんだか
5. なんだか
6. なんとか

さて ところで

1. さて
2. ところで
3. ところで
4. さて

二.

1. ①必ずしも
2. ①必ずしも

3. ②といった
4. ①すなわち ①すなわち
5. ②つまり
6. ②つまり
7. ②さえ
8. ①こそ
9. ①こそ

三. (解答例)

1. 海外からの輸入に依存している
2. このビルは外装、内装ともに素晴らしい
3. もう一度投票が行われる
4. 寒かつ 暑かつ
5. 母の家に寄らずに帰った

四. 略

五.

1. 略
2. パターン化されたものとして、固定の場面に固定の形式で決まって登場する、という意味を表す。
3. 略
4. 後者とは、『広辞苑』における「迷信」の定義のことで、前者の『国語辞典』では「科学的根拠のないことがらを信すること」が迷信とされていたのに対し、こちらでは「現代人の理性的判断から見て不合理と考えられる」もの、

即ち良識に反するものが迷信とされた、ということ。

5. 現代には、すべてを合理化してゆく風潮があり、心のなかまで科学的に区画整理されてゆくが、科学だけが正義であるなら、人生のにがい心の恍惚や不安といった、人間的な部分まで迷信として否定されてしまう。客観的に「迷信」であると理解した上で、迷信を愛するところに、人間が人間らしさを取り戻すきっかけがあるのではないか、という意味。

6. 略

第21課

一.

たまたま たまに

1. たまたま
2. たまに
3. たまたま
4. たまに

ほとんど 十分 うんと

1. うんと
2. ほとんど
3. 十分
4. 十分
5. ほとんど

せめて せいぜい たかが

1. せいぜい
2. せめて
3. せいぜい
4. たかが
5. せめて
6. たかが

ぽろぽろ　しくしく　めそめそ　ぴいぴい

1. しくしく→「めそめそ」も可
2. めそめそ
3. ぽろぽろ
4. ぴいぴい

二.

1. ①にもかかわらず
2. ②なのに
3. ②それにしても
4. ①それにしては
5. ①どおり

三. (解答例)

1. 電車が出る
2. 上達しない
3. 試合は中止になった
4. 難しすぎて

5. 息子が大学に合格できる

四. 略

五. 略

第22課

一.

さっさと さっそく たちまち

1. たちまち
2. さっそく
3. さっさと
4. さっさと
5. さっそく
6. たちまち

べからざる べからず べき べく べし

1. べからざる
2. べく
3. べき
4. べき
5. べからず
6. べし

わざと わざわざ

1. わざと
2. わざわざ
3. わざわざ
4. わざと
5. わざわざ

くよくよ はらはら うじうじ

1. うじうじ
2. くよくよ
3. はらはら
4. はらはら
5. くよくよ
6. うじうじ

二.

1.
 - ① (○)
 - ② (×)
 - ③ (×)
 - ④ (○)

2.
 - ① (×)
 - ② (○)
 - ③ (×)

④ (○)

3.

① (×)

② (×)

③ (×)

④ (○)

4.

① (○)

② (×)

③ (×)

④ (○)

三. (解答例)

1. 料理も洗濯も家事は何でもやる
2. 雨の降る日が少ない
3. 時間もない 当分このままで住むつもりだ
4. いろいろなスポーツをやった
5. 適度な運動をしてストレスを発散した方がいい

四. 略

五.

1. 略
2. そのすばらしい業績と、それに女性と科学者という特徴ある分野の代表人物

- だという理由でお札の顔に選ばれたのだろうが、他方、お金に苦勞しながらそれを超越しているようなところがあった二人だから、「金は天下のまわりもの」という意味をそこから読み取ってもいいだろうと筆者は思っている。
3. 慶応出身の首相と財務省が慶応創始者の福沢諭吉をひいきしたのではないだろうかと疑い、やや不満を感じている。
 4. 専門家を招いたり、難民や亡命者を積極的に受け入れるなど、外来文化からいろいろ学び、自らの文化の基礎を築いたことに特質があると考えている。
 5. 国家や民族を超えて往来する文化が異文化に力を与えて新たな飛躍をもたらすこと。

第23課

一.

～にいたる ～にかかわる ～にわたる

1. にわたる
2. にいたる
3. にわたる
4. にかかわる
5. にいたる
6. にかかわる

ようだ そうだ らしい

1. ようだ
2. そうに らしい
3. そうな

4. らしい→「ようだ」も可

5. ような

6. らしい→「ようだ」も可

二.

1.

① (×)

② (○)

③ (×)

④ (×)

⑤ (×)

2.

① (×)

② (×)

③ (○)

④ (×)

⑤ (×)

3.

① (○)

② (×)

③ (×)

④ (×)

⑤ (○)

三. (解答例)

1. 造形の美しさ 配色の巧妙さ
2. 好意でご意見を申し上げたら
3. 懇親会は参加し し
4. 来年の出場資格にも支障が出る

四. 略

五.

1. 人間のさまざまな経験は、それを表す言葉によって、互に区別される仕組みになっている、と考えている。
2. 経験から出発して言葉に到着すること。
3. 言葉から出発して経験に到着すること。
4. 経験から言葉への表現活動においても、言葉から経験への理解活動においても、人が必ず踏みしめて通らねばならぬ通路であると考えている。また、この意味の通路のおかげで、個々の経験が一つの言葉に収斂していくと考えている。
5. 言葉と経験と意味とをしっかりとつかむ能力。

第24課

一.

こっそり そっと こそこそ

1. こそこそ
2. こっそり

3. そっと
4. こっそり
5. そっと

つい わずか 少し

1. つい
2. わずか
3. つい
4. 少し
5. つい

いつも・たびたび・絶えず

1. 絶えず
2. いつも
3. いつも
4. たびたび
5. いつも
6. 絶えず

二.

1. ①それに
2. ②その上
3. ②それから
4. ①間→「間に」も可
5. ①くせに

6. ②ものの
7. ①うんと
8. ②すっかり
9. ①まるで
10. ②ちょうど

三. (解答例)

1. 二度と東京へ出て来ようとしなかった
2. 何事もなかったかのように平静を取り戻していた
3. 一度外国生活をし
4. 希望校に合格できたら
5. お礼も言わないのは失礼だ

四. 略

五. 略